



札幌市立大谷地小学校 学校だより

令和7(2025)年度 第11号

1月15日

学校HP



大谷地

2026年新しい年を迎えて

校長 山田 健

新しい年がスタートしました。今年は午年です。躍動・成功・勝負運を象徴し、前向きなエネルギーに満ちて情熱的に物事が発展する年とされているようです。みなさまにとっても、新しい挑戦に光が差し、力強く前進する年となりますようご祈念申し上げます。

さて、今年の冬休みはいかがお過ごしだったでしょうか。私は、今年も箱根駅伝を見て過ごしました。報道や特別番組等でご覧になった方も多いのではないかと思えます。

今年も見ていて、たくさん心が動きました。特に以下の2つのことです。

一つは、往路5区の早稲田大学の工藤選手と青山学院大学の黒田選手の勝負の後です。工藤選手が全力を尽くして走りましたが、結果は黒田選手に逆転され悔しさの残る2位となりました。しかし、早稲田大学のキャプテン山口選手は、「仕方がない。あれは勝てない。相手が強すぎ。そんなに泣くな。どんまい。もっと強くなろう。来年勝ってくれ。」というような言葉をかけ、工藤選手を労いました。一生懸命に駅伝という競技に取り組んできたことは二人とも同じ。そして、この5区を全力で走り切ったことも同じ。自分が最後の年であり勝たなかったという思いをもちながら、そこをしっかりと受け止めて声をかけたキャプテンの言葉がとても爽やかで、次に進んでいける、前を向ける声をかけたなど感激しました。結果だけに対する言葉ではなく、仲間を大事にし、その人の次を見据えている仲間思いのキャプテンの心に感動しました。

もう一つは、予選会から勝ち上がった大学が2027年の箱根駅伝のシード権を獲得した瞬間です。予選会はチームの参加選手全員のタイムの合計で競います。一人ひとりが、「一秒を削り出す」走りが要求されます。そのプレッシャーの中、1年間努力を重ね、チームの仲間と競い合っ、でも、支え合っ、予選会に参加します。今回の箱根駅伝でシード権を獲得して、努力が報われたなど思うと同時に、結果を受け止めて、来年に向けて準備するたくさんのチーム、そしてスタッフと選手がいるんだなど考えると胸が熱くなりました。目標に向かって努力した過程は無駄ではなく、それぞれの心の中に何か大切なものを残したはずで、そこが重要だなど思っています。

学校生活においても、結果がすべてではなくその過程に価値があり、結果をどう受け止めて、どう次につなげるかが重要だと考えています。子どもたちが努力し続けるために、そして次に向かうためには、我々大人の関わりも含め、周りの友達やご家庭や地域で認められ、支えられ、見守られていることが大切です。

大谷地小学校は、3学期も引き続きあたたかい学校を目指してまいります。3学期には、この一年間の活動を通した学びを振り返り、次に進んでいけるよう教職員一同、力を合わせて教育活動を進めてまいります。本年も本校の教育活動に昨年同様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

<冬季通学路点検>

9日(金)に、第3回スクールゾーン実行委員会が開かれ、地域や区の担当者、除雪担当の方々のご協力のもと、通学路の点検を行いました。3学期開始に向けて、除排雪や歩道確保の状況などを見回り、危険箇所の確認をするとともに、通学路の安全に関する要望を区にお伝えしました。